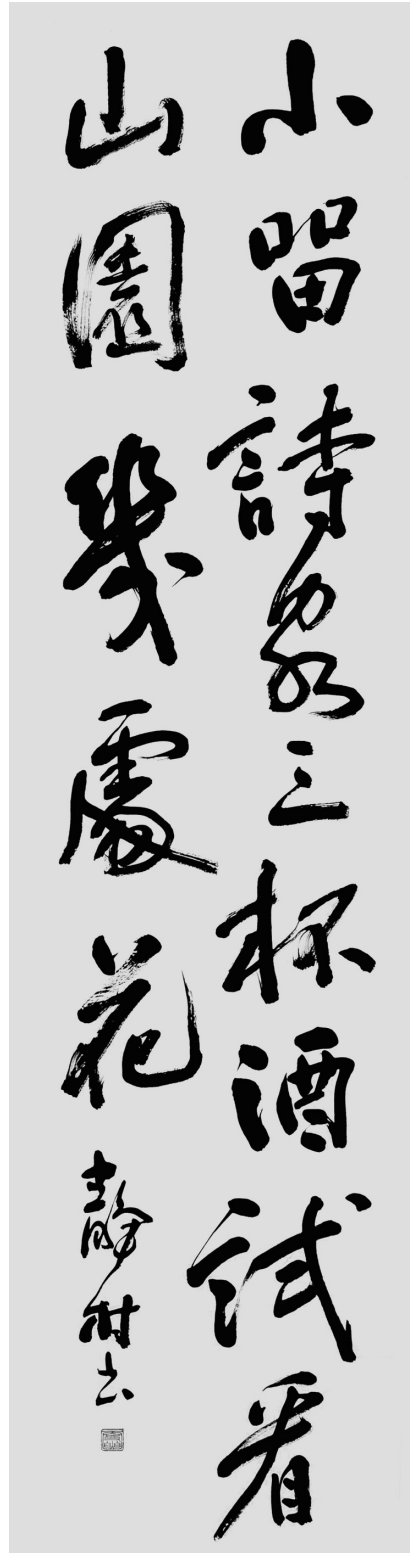


A

鈴木静村書

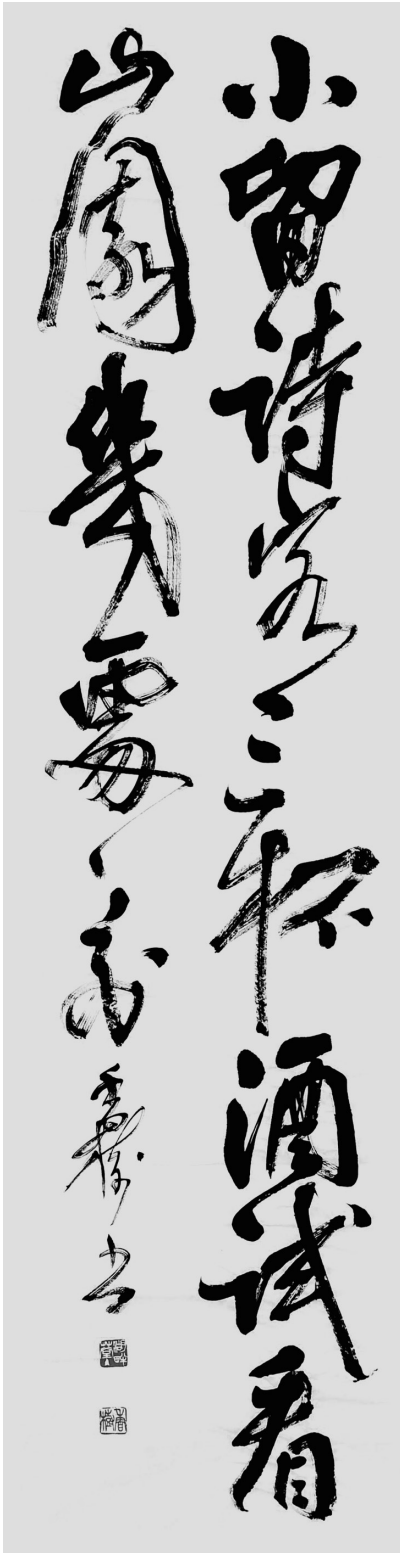
小留詩客三杯酒 試看山園幾處花(楊誠齋)
しゅうりゅう 小留の詩客いかく三杯の酒、こま試みるに看る山園幾處の花。



B

高橋香樹先生書

連綿は一か所だけ。各字が切り離された単体にしたが、バラバラにならないよう、一字の中の筆脈を主に、上下左右のバランスを考えながら書くこと。留 // 〇二つは私の好み、他にもいろいろな書き方。字典での確に。花のハネ上げは長過ぎ、もう少し味のあるように。



今月は連綿線を意識して構成してみました。漢字は左上から始まり右下で終わる文字が多い為、連綿しようとする、右から左への長い連綿線となってしまう。そこに工夫が必要で、中心に近いところから書き初めて中心に近いところで終わるようにすると連綿線は短かくて済みます。訳：まあしばしと詩客を引き留めるのは三杯の酒、ちょっと眺めるのは山園のあちこちの花である。

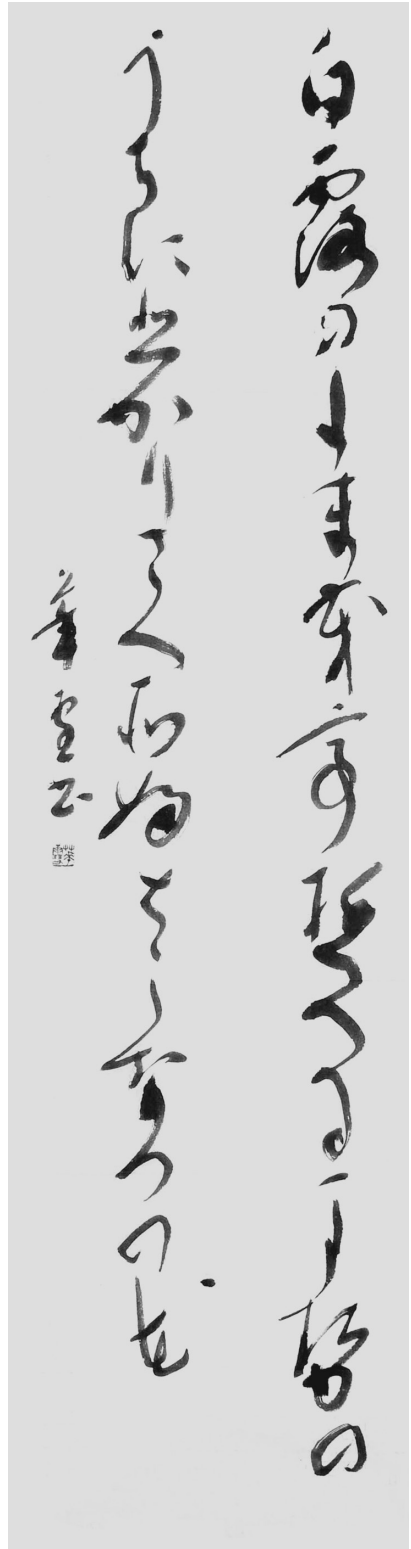
予告 (八月二十二日締切) 夏月湖中爽氣多 南風疊疊捲長波(楊載)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

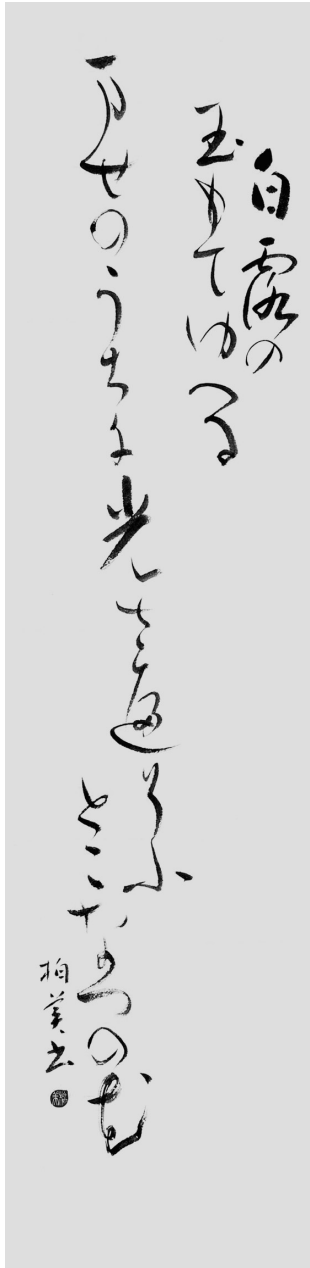
白露の玉もてゆへるませのうちに光さへそふ常夏の花(新古今和歌集 高倉院御歌)
白露の多ま茂亨遊へる万勢のうちに悲かりさへ所婦とこなつの花



B

石島柏美先生書

白露の玉もてゆへる万せのうち尔光さ遍曾ふとこなつの花



学 び 方

源氏物語にも詠まれている四季咲きの花への情景を彷彿とさせてくれる歌意を四行書に表現しました。
「白露の」「玉もてゆへる」は上部に二行書にまとめ三行目の「万せのうち尔」に気持ちを書き進めます。
三行目は渴筆で書きますが「光さ遍曾ふ」の部分、特に「光」は強調し以下をゆっくりと右に少し寄せつゝ書き進めます。

四行目の「とこなつの花」は可憐な花をイメージして三行目の下部に添わせるように書き収めます。
この歌の「玉もてゆへる」「万せのうち尔」「光さ遍曾ふ」の诗情ある言葉を心に留めて書いてみて下さい。

この歌意は「白露の玉で結ったませ垣の内に、その光さえ加わって美しく咲いている常夏の花」である。
上句は白露がませ垣(植込みのまわりに設けた低い垣)にいっぱい置いている形容
光は「白露の玉」の光。常夏の花は撫子の花のこと。
源氏物語の夕顔の巻に本歌があり情趣豊かな歌である。
高倉院は後白河天皇の皇子。
母は滋子(建春門院)。

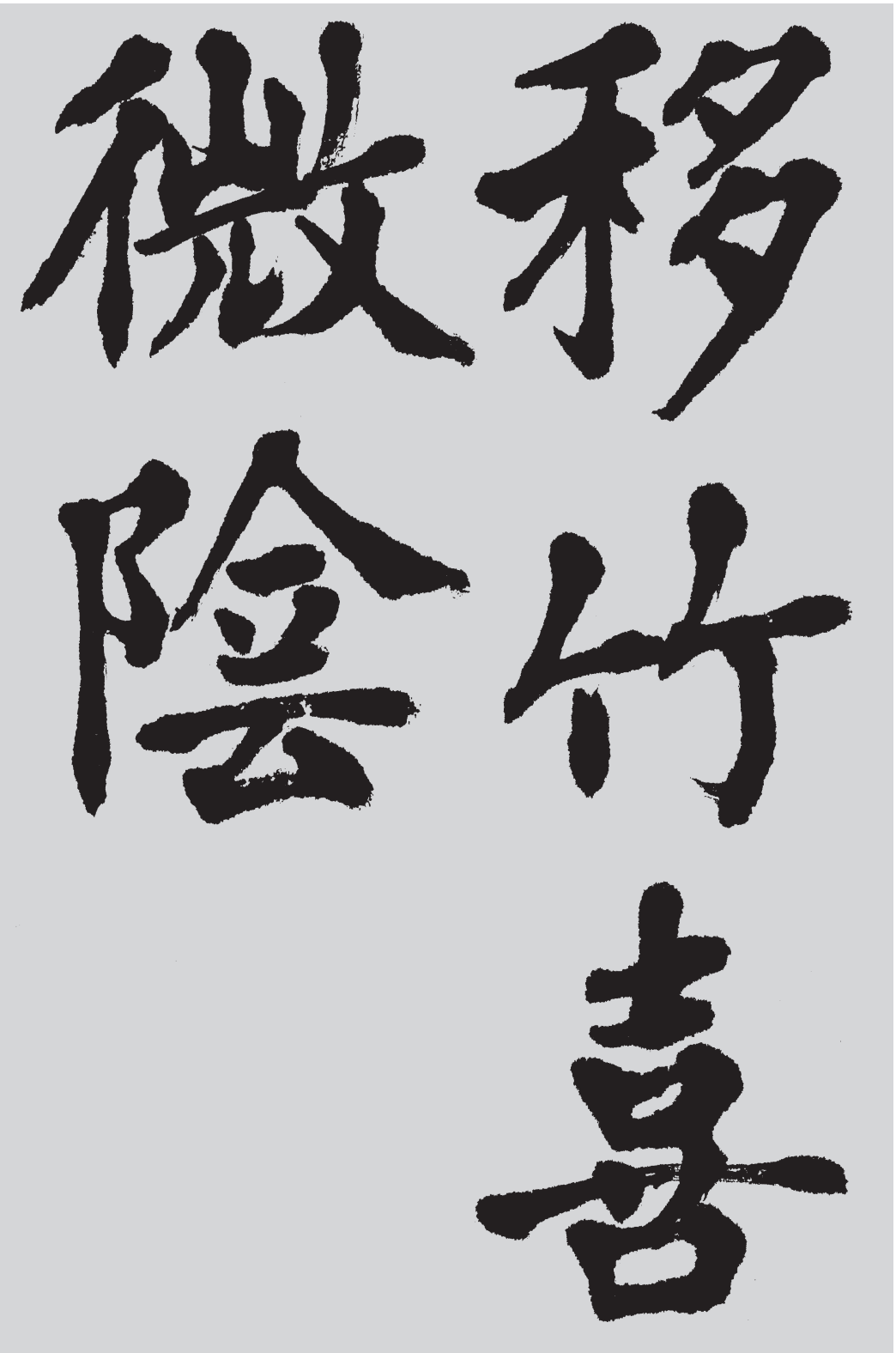
予告 (八月二十二日締切)

窓ちかきいさむら竹風ふけば秋におどろく夏の夜の夢(新古今和歌集)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

竹を移して微陰を喜ぶ(陸游)

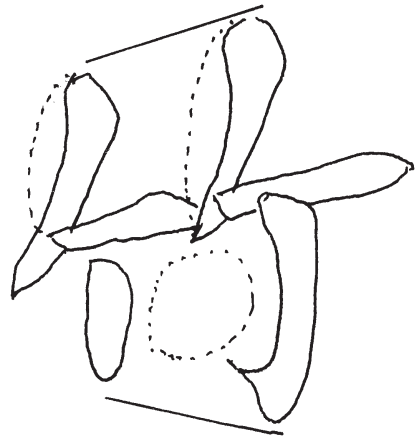
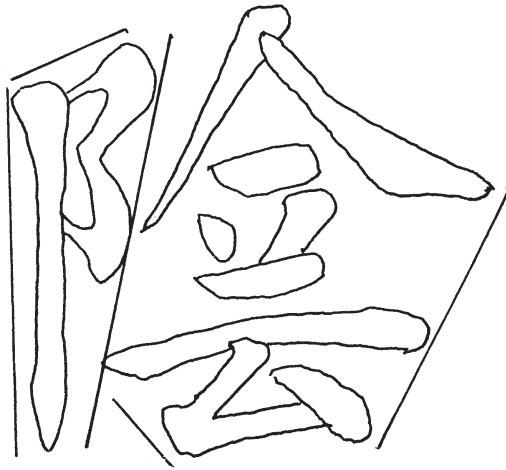
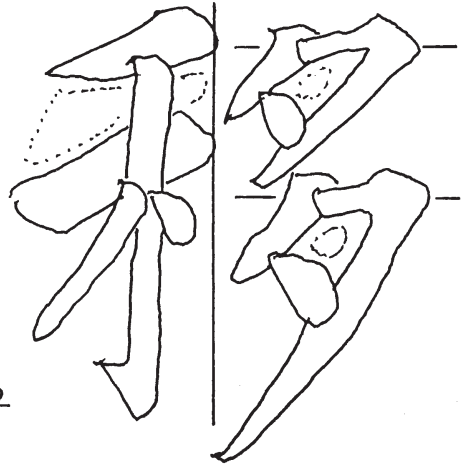
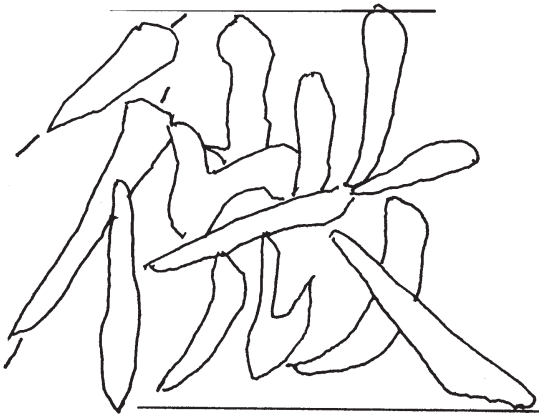


訳：竹を移し植えて、わずかな日かげを楽しむ。

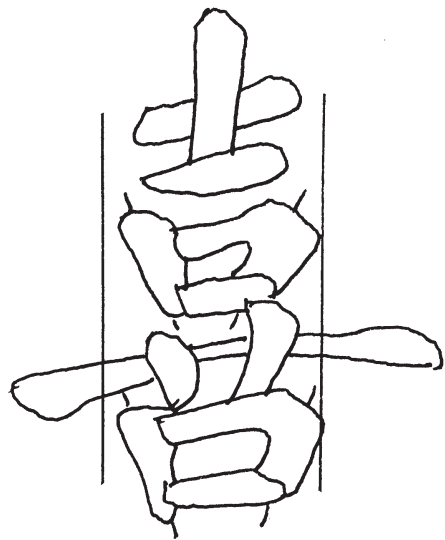
▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

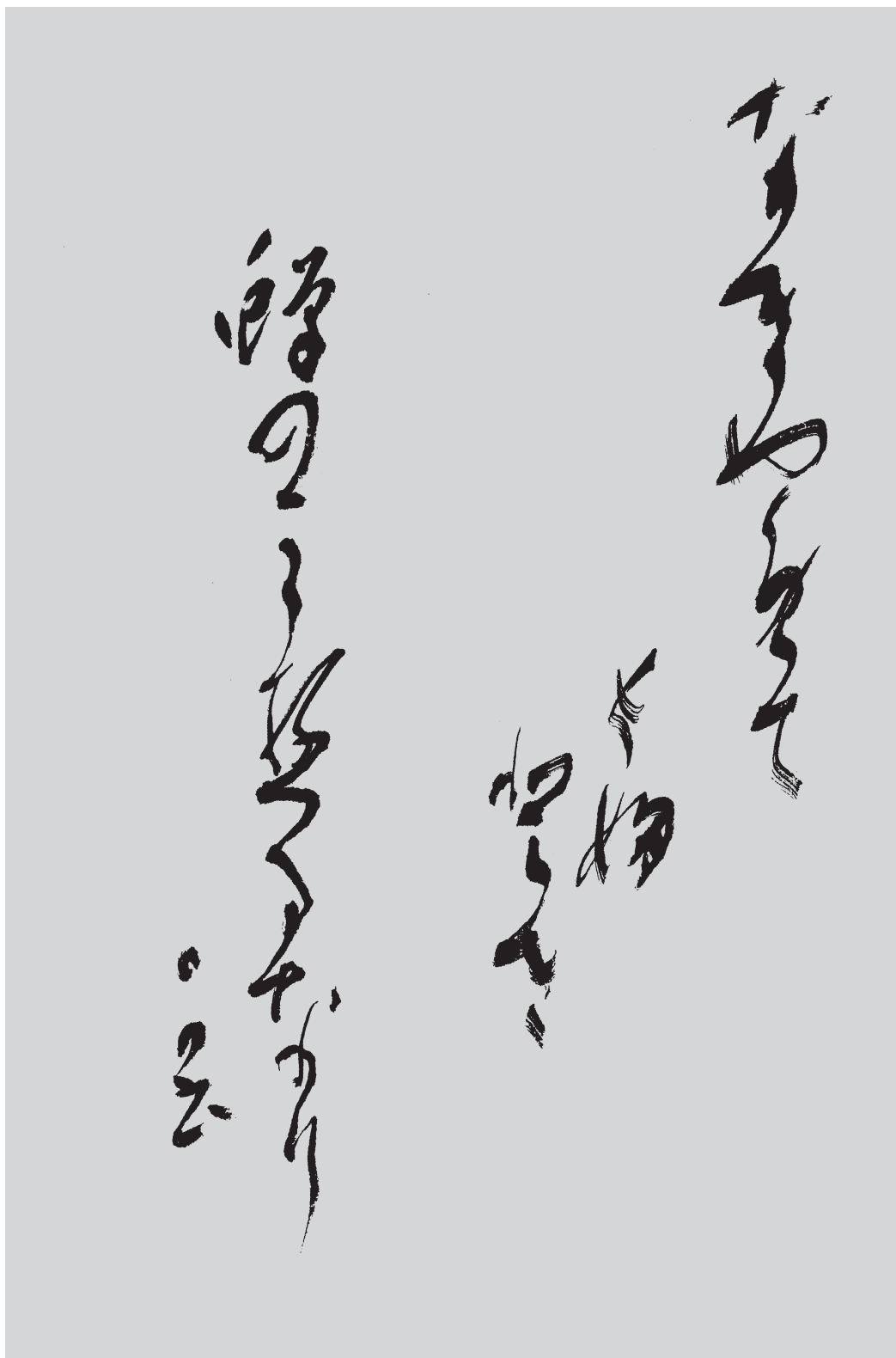


微、陰、字バツハエ
 古典心の頻度の多い字体。



平岡華雪先生書

鳴きやめるとぶ時蟬の見ゆるなり(子規)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① かな部
 - ② 支部名または都道府県名
 - ③ 氏名または雅号
 - ④ 新
- 会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。

余白のこと

今頃は余白について触れたい。
 以前、美雪先生は余白について、
 仰ったところ、
 「流れだね。」
 自然体がいーい。

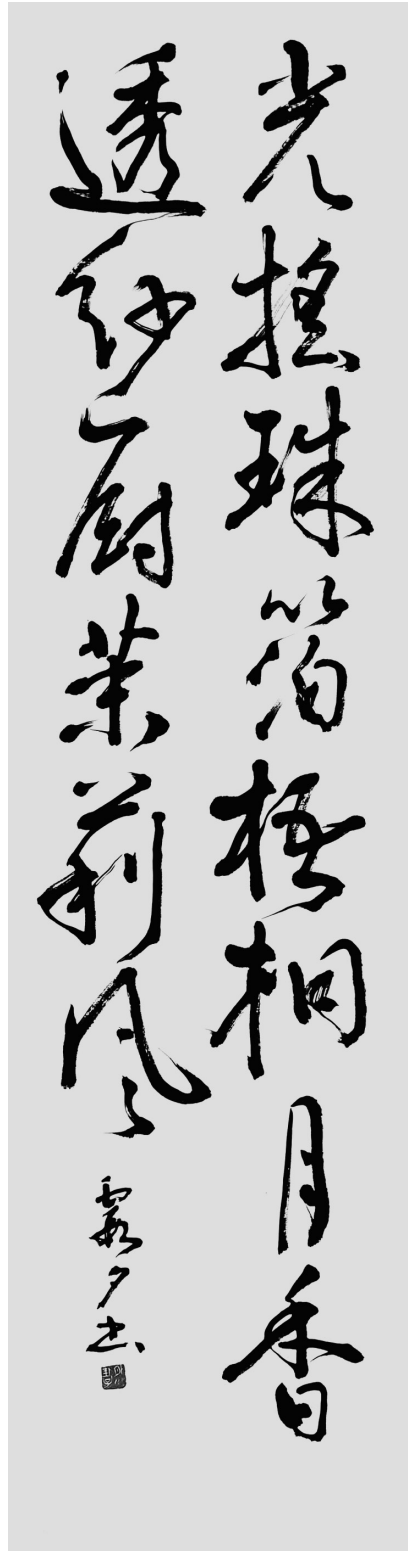
とサラリと仰ったことを憶い出す。この課題作は(点線部分)に余白を
 布置、句調によるアクセントと喚起、最後の行は、後款を含めた左余白を
 包含した全調の表出と、味やいぼめたい。

いーい

The calligraphy '余白のこと' is written in a highly stylized, vertical style. The characters are interconnected and fluid. A dashed line outlines the overall shape of the characters. Below the main text, there are smaller calligraphic elements, including a dashed outline of a character and a signature 'いーい'.

外川霞夕先生書

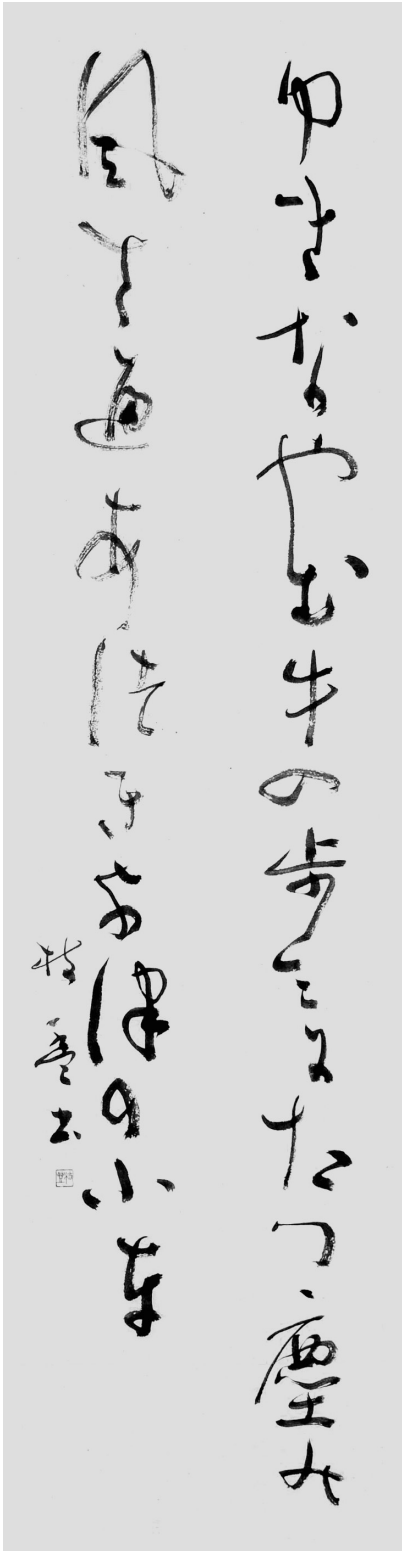
光搖珠箔梧桐月 香透紗厨茉莉風（黄庚）
 光は珠箔を揺す梧桐の月、香は紗厨に透る茉莉の風。



訳：梧桐に上る月は珠すだれを窺うが故に美しく光る、蚊帳の中に香気の通るのは風が送る茉莉の花の香である。

鈴木枝豊先生書

行きなやむ牛の歩みに立つ塵の風さへあつき夏の小車（玉葉集 藤原定家）
 ゆきなやむ牛の歩三尔たつ塵能風さ遍あ徒き奈津の小車



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

北沢博舟先生担当 争坐位文稿 唐 顔真卿 (七〇九—七八六)

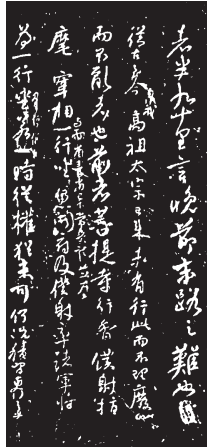
※条幅臨書部は出品料無料です。



言晚節末路之難也 晩節末路の難きを言うなりと。

形式一 半切タテ一行書

落款左行へ調和よく「〇〇臨」と書き入れる



鈴木静村会長書

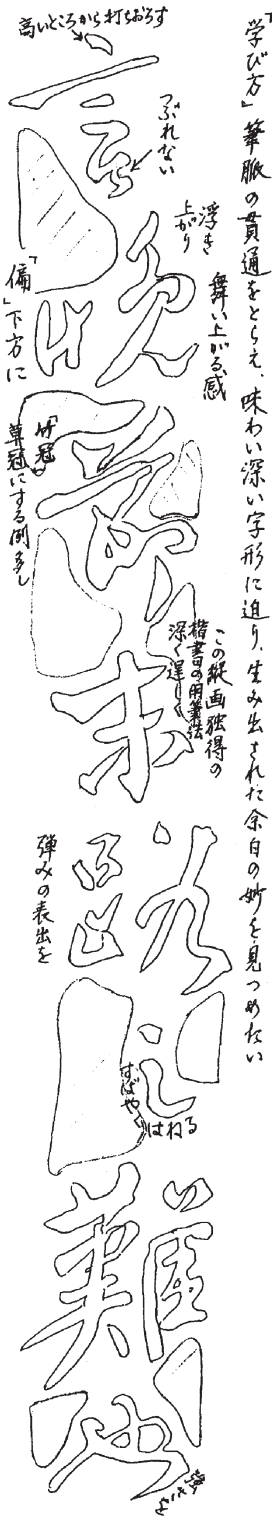
心如金石 志似松筠 (關羽)



心如金石の如く
志は松筠に似たり
訳：心は金石の如く堅く、志は松竹の如く変らない。

作品が過去の書誌に掲載されていたことを思い出し、遑って調べてみました。それが図版に掲げました「心如金石……」の一行書きです。
同じ字数で、どこもなく全体感として八文字が連動し、うねりを醸成しています。相似している点によく注目してみてください。字々の大小と太細、適度の崩しと丸味、その特徴とする偏と旁の離れ、豪快な思い切りのいいところと、やさしく神経のこまやかなところ、等。一行書きの場合、墨継ぎが大事なポイントと教えられています。筆意の面で前半と別物的にならないよう、用筆の受け継ぎに神経のこまやかさを働かせてみてください。

皆様の積極的な挑戦を心より期待しております。



「学び方」筆脈の貫通をとらえ、味わい深い字形に迫り、生み出された余白の妙を見つめたい

書き手 舞い上がる感

ふれたい

上から

下から

偏「下方に

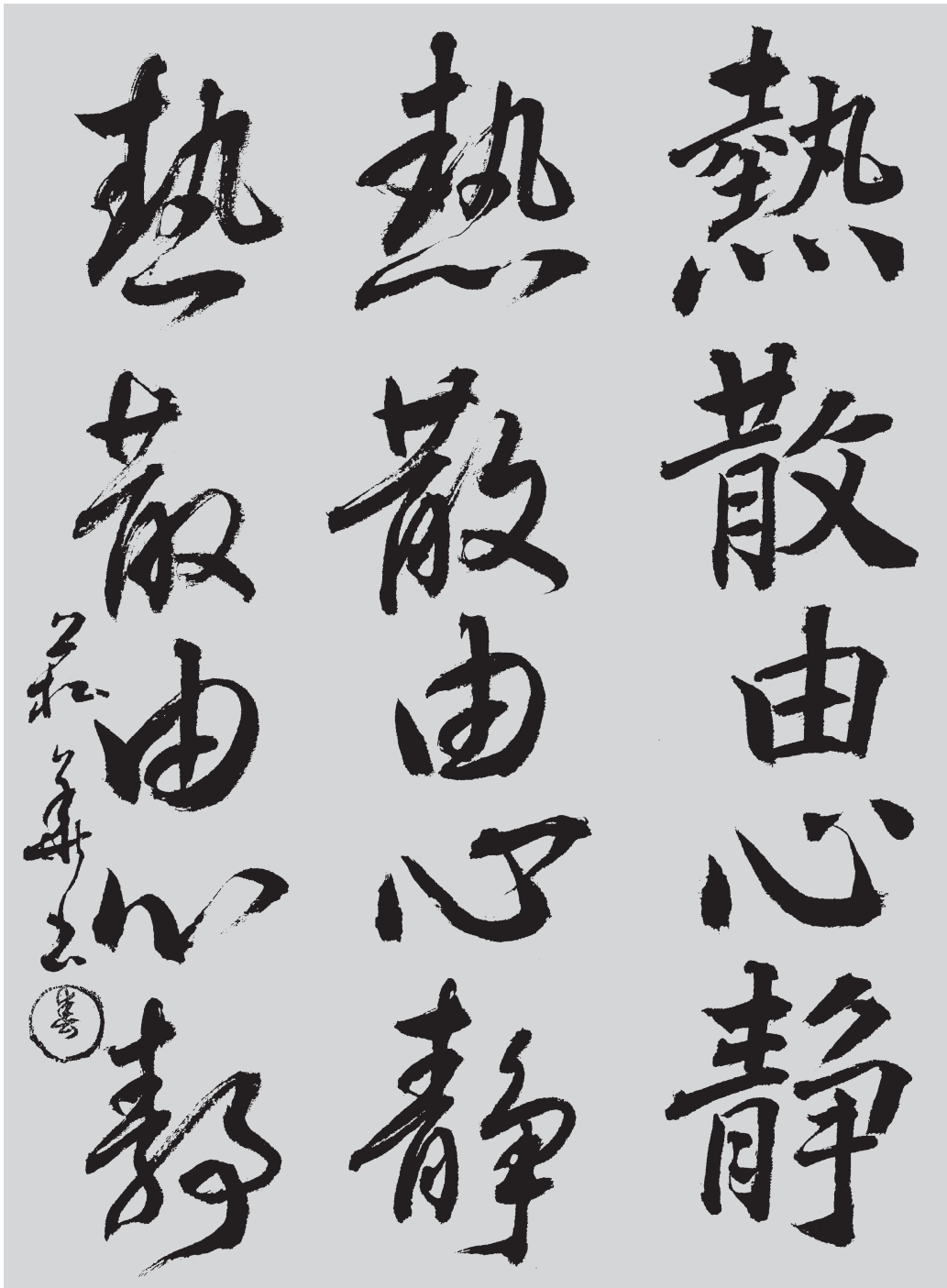
算冠にする例多し

この縦画獲得の
楷書の用筆法
深く運し

弾みの表出を

小暮 菘 華 先 生 書

熱散由心靜
熱散ずるは心の静かなるに由る。

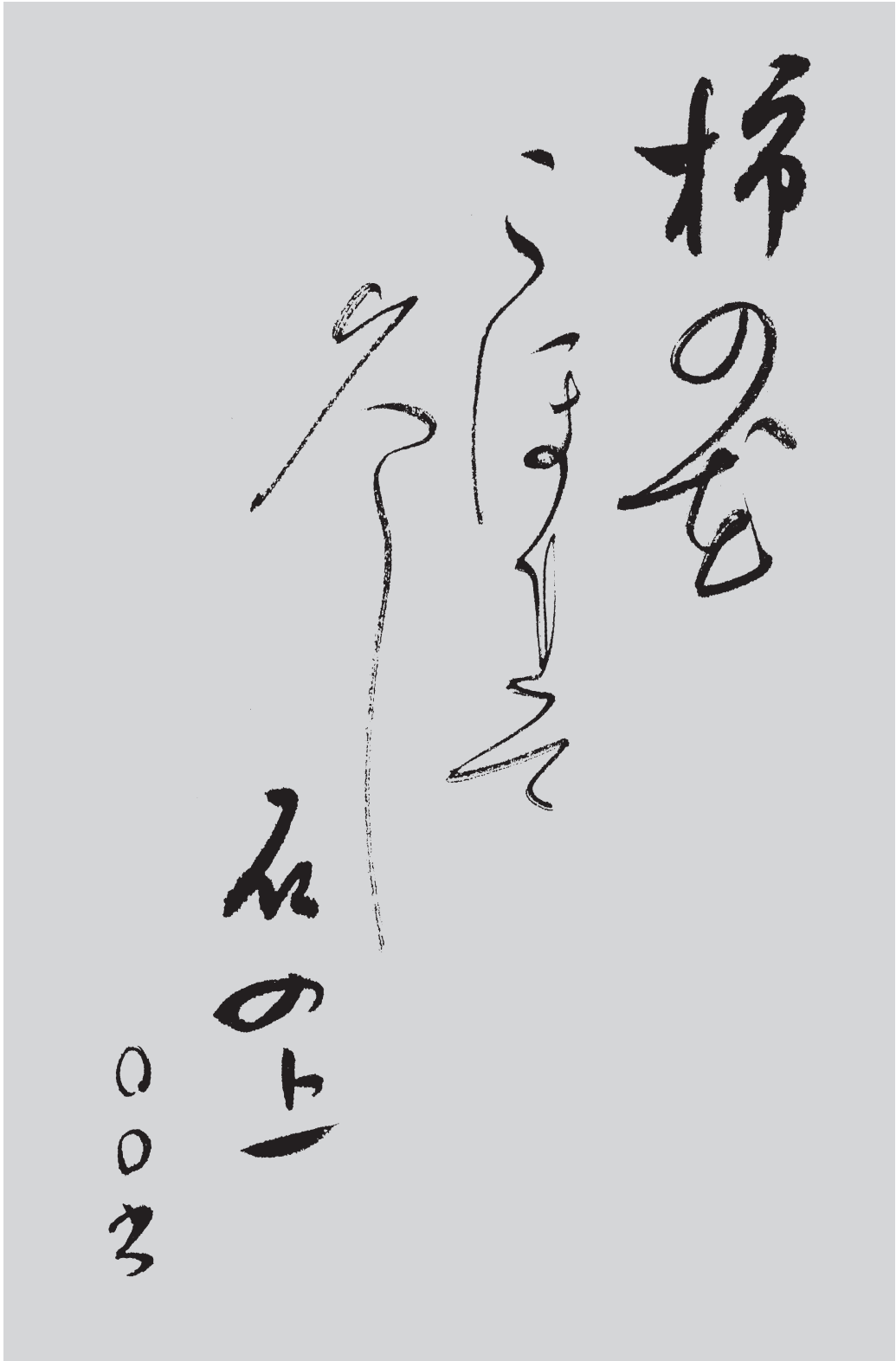


訳…心に熱気を感じず夏を忘れるのは心静かなる為である。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は400円。

高塚竹堂先生書

柿の花こぼれて久し石の上(虚子)




◆随意部参考として出品してください。

本 田 博 雪 先 生 書

飛瀑林中雨 斜陽山半晴（施愚山）
飛瀑林中雨、斜陽山半の晴。

飛瀑林中雨 斜陽山半晴

博雪書

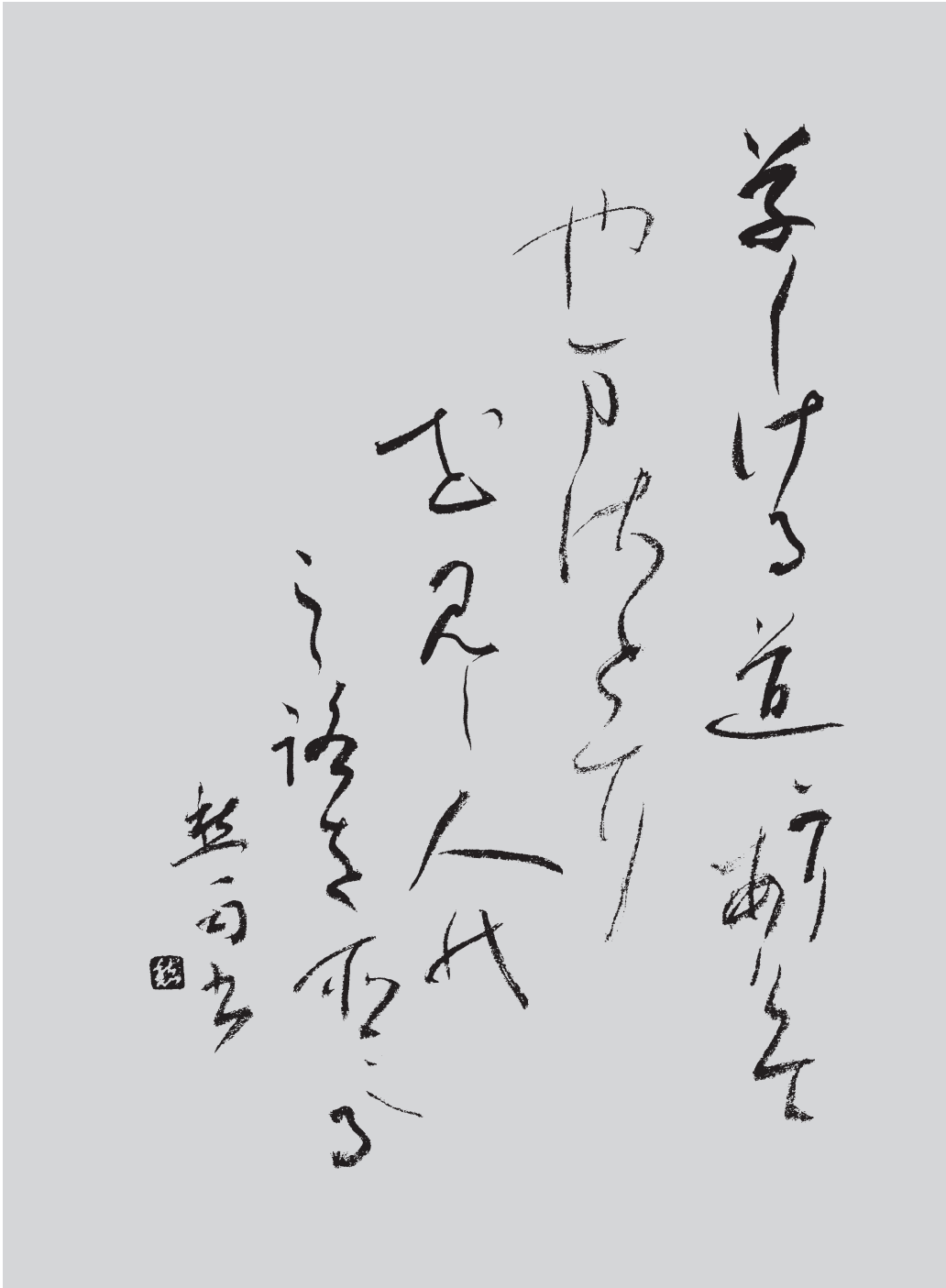


訳：瀑布は飛沫を四方に散じて林中の雨かとも疑われるが、山の中腹は晴天で夕日がかがやく。

添削又は手本希望者は本会規定により、本田博雪先生（〒235-0024 横浜市磯子区森が丘2-16-18）に直接お申し込みください。

加藤愁雨先生書

草しげる道^{みち}かりあけて山^{やま}ざとに花^{はな}みし人^{ひと}の心^{こころ}をぞみる（山家集 西行）
草しける道^{みち}可^かりあ介^けてや万^ま佐^さと耳^{みみ}花^{はな}見^みし人^{ひと}能^のこ、路^ちを所^そ三^みる



添削又は手本希望者は本会規定により、加藤愁雨先生（〒252-0318 相模原市南区上鶴間本町2-17-16-419）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)

景色の美しさも夢の続き以外のなに
 ものでもなかった。昼は全てが真っ白な
 光の中に、夜は漆黒の闇にまみれて。

両国橋の東づめにある麦飯屋の
 晝どきどきである。息を吐きつるだけで
 汗ばむ陽気に、「麦とろ」というそっ
 そりけない看板が客を呼ぶ。

課題1 (初段以上)

両国橋の東づめにある麦飯屋の晝どきである。息を吐きつるだけで汗ばむ陽気に、「麦とろ」というそっけない看板が客を呼ぶ。

「本所深川ふしぎ草紙」宮部みゆき

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 〒二〇七〇〇三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 〒三七一〇〇二六

前橋市城東町一―二九一五

課題2 (初段格以下)

景色の美しさも夢の続き以外のなものでもなかった。昼は全てが真っ白な光の中に、夜は漆黒の闇にまみれて。

「虹」吉本ばなな